



九州大学 炭素資源
国際教育研究センター
RESEARCH AND EDUCATION CENTER OF
CARBON RESOURCES, KYUSHU UNIVERSITY

炭素資源国際教育研究センターは、炭素資源の開発、有効利用とそれを通じた地球環境、エネルギー問題の解決にむけた研究開発、人材育成と国際的なネットワークの構築を産学連携のもとに推進し、九州大学における炭素資源に関する教育研究拠点形成の中核的役割を担うことをミッションに、2008年4月に設立されました。設立の経緯や活動内容の概略はNEWSLETTER Vol.1, 62ページに紹介されていますし、詳細はホームページ<http://cr.cm.kyushu-u.ac.jp/>を参考にし、ここではセンターの充実に向けた新しい動きを中心に紹介します。

「石炭等化石資源中核人材育成事業」の自立化母体

表記事業は、経済産業省委託事業「産学連携人材育成事業」として、平成19年度から21年度までの3年間にわたり、九州大学の諸部局、公的研究機関と産業界との共同作業により、石炭の利用に関わる科学技術分野についての教材開発と実証講義を行ってきました。平成22年度からは、本センターが母体となって、実証講義を基礎教育、実践教育、海外人材育成プログラムに展開、自立化していきます。基礎教育プログラムでは、化石資源の概論～環境保全までの広範な分野を有機的に組み合わせ、社会人の受講を考慮した大学院科目(4科目、4単位)を開設します。実践教育プログラムでは、中堅技術者等の社会人を対象としたアドバンスカリキュラムや最先端情報を、公開講座や講演会の形式で提供します。これらの講義等に利用する教材は、本事業で開発したテキストを再編集して利用します。海外人材育成プログラムは、アジア地域で低炭素社会構築のための国際人材育成を目標に、開発した英語教材を用いて、国内外での実施を計画しています。

中核人材育成事業の推進においては、産官学コミュニティーが極めて有効に機能しました。このコミュニティーを維持、発展させるために、センター内に「炭素資源コンソーシアム」を新設し、炭素資源に関係する産官学技術者／研究者の連携拠点形成、国際事業の展開を図っていく予定です。

センター独自のプロジェクト

文部科学省特別経費(プロジェクト分)として、「未来型炭素資源研究拠点形成」が、H21から27年度の6年計画で採択されました。地球環境を保全しつつ、資源・エネルギー問題を解決する科学技術基盤の確立を目的として、炭素資源の有効利用と低エネルギー消費社会の実現を図る先端研究と人材育成の拠点を炭素資源国際教育研究センターと学内諸部局の人材を結集して構築するもので、本センターのミッションを具現化するプロジェクトです。

センターの研究アクティビティ

ゼロエミッション石炭利用プログラム「革新的石炭ガス化プロジェクト(NEDO)」、「九州ビクトリア 褐炭の高度利用研究(九州電力／ビクトリア州政府)」、「国際都市間協働によるアジア途上国都市の低炭素型発展(環境省)」などの外部資金を獲得し、国内外連携研究を活発に推進しています。また、これらの研究は、若手研究者、学生を参画させることによる人材育成にも有効に機能しています。

G-COE「新炭素資源学」のメディエーター

G-COEに関わる全教員は、センター担当教員(複担、協力)あるいは事業協力教員としてセンターに所属して活動しています。また、G-COE関係の客員教授、訪問教授、学術研究員等は拠点で採用を審議し、その結果をもとに当センター委員会で承認、発令を行うシステムをとっています。G-COEとは前述の教育、研究における連携のみならず、拠点運営に関しても密接な連携関係にあります。

また、G-COE以外の炭素資源関係の研究教育プロジェクト(国公私立大コンソーシアム福岡、九州大学東アジア環境研究機構など)や九州低炭素システム研究会、エネルギーベストミックス研究会等と有機的かつ緊密に連携して、炭素資源ネットワークの構築に努めています。